

平成25年度千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議 シーズ発表会 開催報告

平成26年2月17日（月）ホテルグリーンタワー幕張にて、平成25年度千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議シーズ発表会を開催しました。参加者は62名で、アカデミア、建築関係、農業関係、公的研究機関、自治体、ベンチャー企業等、バラエティーに富んだ方々にご参加いただきました。

1 シーズ発表会

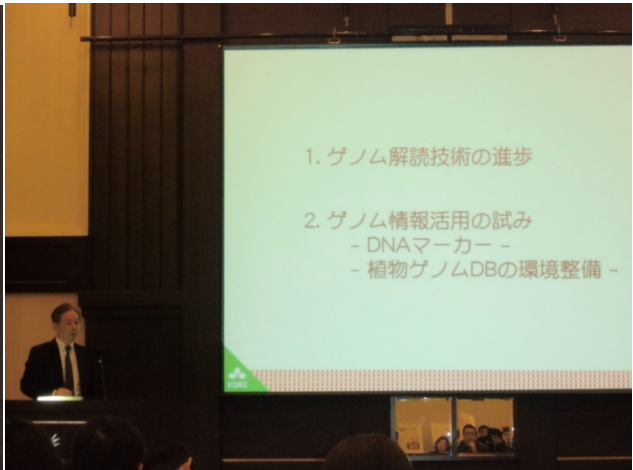
主催者を代表して、公益財団法人かずさDNA研究所 所長 田畑哲之からのあいさつに引き続き、「全ゲノム解読で変わるイチゴ・カーネーションの新品種開発」をテーマとして、以下の4つの課題でシーズ発表会を行いました。



(1) 「実用植物のゲノム解読の現状とゲノム情報の活用」

かずさDNA研究所 所長 田畑 哲之

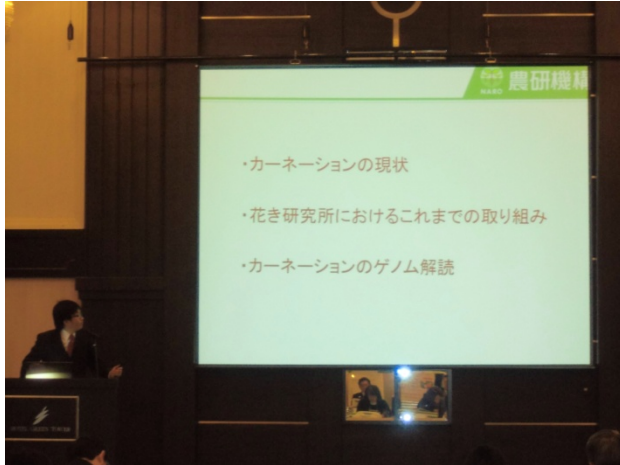
DNA マーカーの開発についてのご説明、および、現在進行中でありますプロジェクト「ゲノム情報に基づく植物データベースの統合」についてご紹介いただきました。また、植物研究に関連する情報基盤の構築についての現状と将来への展望についてご発表いただきました。



(2) 「カーネーションのゲノム解読と波及効果」

農業・食品産業技術総合研究機構 花き研究所 主任研究員 八木 雅史 氏

長年取り組まれてこられた萎凋細菌病抵抗性カーネーションの品種開発について、“花恋ルージュ”という品種での成果と特性について、ご発表をいただきました。また、その後のマーカー研究の進捗状況について、ご説明いただきました。



(3) 「イチゴの品種開発の現状と、今後の方向性」

千葉県農林総合研究センター 生産部 部長 石川 正美 氏

日本におけるイチゴの育種についての現状と問題点、また、ゲノム解析に基づく育種方法を確立することによる将来への展望についてご発表をいただきました。今後、各機関で連携・分担することにより、共同育種を進めていくことが重要であり、種子分配の明確化、初期段階からのマーケティングに基づいた品種育成・販売戦略など、今後の育種についてのあり方をお話いただきました。



(4) 「栽培イチゴのゲノム解析と品種開発への応用」

かずさDNA研究所 植物ゲノム応用研究室 室長 磯部 祥子

次世代シーケンサーを用いたイチゴのゲノム解析、イチゴの品種識別 DNA マーカーについて、今後のイチゴ育種に役立つ DNA 解析技術の取り組みについて、ご発表いただきました。

また、かずさ DNA 研究所「バイオ産業技術支援センター」における受託解析についてご紹介いただきました。



2 まとめ

名刺交換会は、研究者・企業間の交流の場としてご活用いただきました。今後の産学官連携と新産業の創出へ繋がることを期待されます。

参加者の皆様からは、”育種に対する全ゲノム解読の必要性、活用や展開の戦略等研究の基本的な事が理解できた“ ”マーカーを利用した育種がどこまで可能か期待したい“等の反響をいただき、盛況のうちに終了することができました。